

令和2年度のアクションプラン（前期中間評価）

【アクションプラン1】

重点項目	学習指導（うんとかんがえる子・・・知）
重点課題	◆ 活用・探究型授業の実施
具体目標 数値指数	・学期毎の複数時間設定の問題解決的な学習や新聞を活用した学習の実施率100%
取組	・問題解決的な学習（調べる・まとめる・伝える）や新聞を活用した学習を計画的に実施する。
結果	実施率 89%
成果と課題	<p>【問題解決的な学習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主体的に学習に取り組むことができた。 ○子供同士で学び合う場面が増えた。（調べ活動、発表、意見交流等） ○友達に説明するときの言葉が増え、分かりやすく発表できるようになってきた。 ○学習の前後で自分の考えを比較して考える子供が増えた。 ○仮説を立て、調べたり体験したりしたことで、筋道を立てて考えることができるようになってきた。 ○子供が切実感をもつような学習課題を設定したことで、課題を自分事として捉えて、学習に取り組んでいた。 △子供が主体的に探究できる課題を考えるのが難しかった。 △個に応じた支援が難しく、学習意欲を向上させられなかった。 <p>【新聞を活用した学習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新聞を学習に取り入れたことで、文章を読んだり、分からないことを調べたり、自分の考えを書いたりするきっかけになった。 ○学習内容が新聞に載っていることを知り、学習意欲の向上につながった。 ○宇奈月新聞ゼミナールの子供の意見を参考にして、九州豪雨災害の義援金を募ったり、6年生が大阪屋での募金活動を行ったりすることができた。 ○新聞の見出しの付け方や紙面構成の工夫を学習したことで、社会科や総合的な学習の時間の新聞づくりでは、分かりやすい見出しを付けたり、文章構成を意識したりして自分の考えをまとめることができた。 ○国語科、社会科の学習や朝の会の教師の話の中で、新聞記事を継続的に紹介したことで、世の中の出来事に興味を示すようになってきた。 △低学年はまだ読める文字が少ないので、新聞を読んで考えることが難しかった。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期までの実践の反省を生かしながら、3学期も問題解決的な学習に計画的に取り組んでいく。 ・新聞を使った学習の先進的な取組例も参考にしながら、新聞を活用した学習に取り組んでいく。読める文字が少ない低学年には、ふりがながふってある新聞記事や子ども新聞等を活用していく。

【アクションプラン2】

重点項目	生徒指導（なかよくする子・・・徳　きれいなこころの子・・・心）
重点課題	◆ 互いのよさを認め、協力し、主体的に活動する子供の育成
具体目標 数値指数	・宇奈月小学校の温かい言葉「あさがおさいた」（相手を認める場面）を広げる時間の毎日の実施率90%以上
取組	・「あさがおさいたタイム」を活用して、互いに認め合い、折り合いを付けながら生活をしていく関係を築く学校・学級づくりを行う。
結果	実施率　96%
成果と課題	<p>○どの学年も、帰りの会に設定している。時間に都合がつかない場合には、授業の振り返りとして行うことがある。</p> <p>○1学期に比べ、発表したいという子供が増えた。</p> <p>○仲のよい友達や男女に関係なく、相手のよさを伝える子供がいた。</p> <p>○学習場面のことや係活動等、素敵なところを褒め合えるようになった。</p> <p>○他の学級の児童の名前を挙げることもあった。</p> <p>○友達のちょっとした変容も教師に伝えるようになった。</p> <p>○限られた時間の中で5人の発表者と決めて取り組んでいる。举手した児童の名前を係の者が書いて教室で掲示している。それを道徳の授業にも活用している。</p> <p>○自己肯定感を高める指導（おかげ様カードなど）を工夫した。</p> <p>△発表者が固定化、マンネリ化してきた。</p> <p>△委員会活動での「あさがおさいたカード」は下学年はよく書いているが、上学年は少ない。</p>
今後の方策	<p>・教師が朝のうちに友達の行動を観察するように声かけし、発表できるように意識させる。名前が上がらない子供には教師や日直が観察して褒める。</p> <p>・「あさがおさいたカード」を入れるポストの位置の変更や増設、友達のよいところを教師が児童に助言するなどの働きかけをしていく。</p> <p>・集会を2回行った。密を回避しながら、ねらいと目的を明確にした縦割り班活動をさらに実施し、学年に応じた振り返り活動を行うことで、異学年の友達と触れ合うよさを味わう。</p>

【アクションプラン3】

重点項目	保健指導（つよいからだの子・・・体）
重点課題	◆ ゲームやメディア利用の目標設定
具体目標 数値指数	・週に一度、教師がゲームやメディアとの付き合い方の目当てをもたせる実施率90%以上
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健委員会で専門家からの指導を仰ぎ、ゲームが心や体の健康に与える影響について理解する。 ・毎週水曜日に子供が自分で取り組めそうな工夫や目当てをカードに書く。 ・1ヶ月を通して、メディアコントロールカードの目当ての実践がすべて「できた」であった子供の名前を給食時に放送で紹介する。
結果	実施率 98%
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○メディアコントロールの目当てをもたせて帰すことができた割合は、1学期・2学期共に目標を達成できた。 ○メディアコントロールを意識した子供の割合が上昇した。（9月29%→11月50%） ○メディアコントロールカードの目当ての実践がすべて「できた」だった人を発表したのが効果的だった。 ○メディアコントロールカードが効果的だった。 <ul style="list-style-type: none"> ・1ヶ月毎のカードにしたことで、見通しをもつことができ、自分を振り返ることもできた。 ・1ヶ月を通じた成果を保護者も意識することができた。 ・「できた・まあまあ・できなかった」の3つの段階があり、振り返りがしやすかった。 ○学校保健委員会はインパクトのある講演内容であり、「メディアコントロールをすることで、自分の脳を守りたい」という子供たちの意識が高まった。また、メディアの視聴時間の実態を表した円グラフは分かりやすく、効果的だった。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアコントロールデー以外の曜日は変化があまり見られないので、他の曜日の過ごし方を考えられるようにする。自主的にメディアコントロールデーを週2回にしている子供の実践を紹介し、全校に広める。 ・メディアコントロールの黄色の紙に書かれた保護者の言葉や子供たちの言葉を保健だよりや学年だより等で紹介していく。